

保育園等における外国にルーツをもつ子どもの受入れの現状と課題

—コミュニケーション補助ツールの提案—

小倉 亜紗美 (呉工業高等専門学校 人文社会系分野, a-ogura@kure-nct.ac.jp)

田村 麻歩 (前呉工業高等専門学校, maho.conan@outlook.jp)

神田 佑亮 (呉工業高等専門学校 環境都市工学科, yusuke-k@kanda-labo.net)

八島 美菜子 (広島文化学園大学 学芸学部, yashima@hbg.ac.jp)

Accepting children with foreign roots in nursery school:

Suggestion for communication support tools by finger pointing

Asami Ogura (Department of Humanities and Social Sciences, National Institute of Technology (KOSEN), Kure College)

Maho Tamura (Ex-Department of Civil and Environmental Engineering, National Institute of Technology (KOSEN), Kure College)

Yusuke Kanda (Department of Civil and Environmental Engineering, National Institute of Technology (KOSEN), Kure College)

Minako Yashima (Faculty of Arts and Sciences, Hiroshima Bunka Gakuen University)

要約

外国にルーツをもつ乳幼児を受け入れている保育園で生じている問題やそれに対してとるべき対策などを明らかにすることを目的として、外国人留学生が多い広島県東広島市と、外国人技能実習生が多い呉市を対象に、外国にルーツをもつ子どもを受入れる保育園とその保護者を対象としてアンケート調査を行った。その結果、両市では外国にルーツをもつ乳幼児の全体数や各園の在籍情報を把握しておらず、保育園は言葉が通じないことに起因する事故の恐れや文化や食事に関する理解不足、保護者との意思疎通の困難といった不安を抱えていた。そのため保育園は、子どもの親の国の文化を紹介する資料、子どもの受入れの時点で親の国籍や言語能力、食事の配慮の有無などの事前把握、市の外国人住民に対する支援体制についての情報提供、加配保育士の配置などを要望していることが明らかとなった。一方、外国にルーツをもつ子どもの保護者は、日本語能力が低いほど、保育士と意思疎通が出来ないことで困難を抱えており、英語の書類や掲示、通訳・コミュニケーション補助ツールの他、自国の文化を紹介する資料、ハラルフードの提供の要望があった。このような要望に早急に対処していくことが必要であるが、予算も限られているため、通訳の配置や翻訳機の配布はすぐには難しい。そこで、筆者らは「やさしい日本語」と英語、イラスト等で構成した指差しでコミュニケーション可能なツールを作成し配布したところ、保育園から高く評価された。

キーワード

外国にルーツをもつ子ども, 保育園, 保護者, コミュニケーション, 指差しツール

1. はじめに

近年日本では、少子高齢化に伴う労働力不足による外国人労働者の増加に加え、出入国管理及び難民認定法の改正などにより在留外国人数は増加し、法務省の「在留外国人統計 (旧登録外国人統計)」によれば2022年6月末には日本の総人口の2.4%にあたる302万人に達している。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年度は外国人の入国が制限されたため在留外国人数が減少したものの、新型コロナウイルスが収束するにつれ今後も増加していくことが予測される (小松, 2022)。このような外国人住民の増加に伴い、様々な問題が生じてきている。例えば、災害時の情報発信が主に日本語のみで行われているために、外国人住民が防災情報を得ることが出来ていないという現状がある (小倉他, 2020)。また、学校等でも外国にルーツをもつ子ども (両親またはそのどちらか一方が外国出身者である子どもや若者のこと)

が増加してきており、日本語能力の不足により、学校での授業を理解できず学力低下や不登学に陥ってしまうなどの問題が生じている (森, 2018)。文部科学省 (2022) の「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」によれば、2021年5月1日における日本語指導が必要な児童生徒数は58,307人でそのうち82%が外国籍の児童生徒であった。このような状況を踏まえ、2011年には文部科学省が「外国人児童生徒受入れの手引き」を作成している他、外国にルーツをもつ子どもに特化した教育支援の方法 (長橋, 2018) や地域と連携した学習支援 (瀬戸, 2022)、大学生による学習支援 (柴田, 2016) についてなど多くの報告がある。さらに、平 (2015) は、外国にルーツをもつ小学生の就学前の言語習得の重要性を指摘している。法務省の「在留外国人統計」によれば、2022年6月末に日本に在留している外国人のうちその4.3%にあたる126,400人が0歳から6歳の未就学児 (乳幼児) であり、保育園等 (以後、保育園とする) にも多くの外国にルーツをもつ幼児が在籍していることが推察される。幼児のうち、3歳未満の子どもは言葉でのコミュニケーションが取れない発達段階であるため、保育士と保護者

とのコミュニケーションは保育の質に関わる重要な問題であるだけでなく、食物アレルギーなどの情報を正確に伝えることが出来ない場合、子どもの命にかかわる問題が発生する可能性がある。和田上他(2017)は、外国にルーツをもつ子どもを保育する保育士を対象にアンケート調査を行い、保育士が子どもに対しても保護者に対しても意思伝達に戸惑っており、保護者との相互理解が出来ていないことを指摘している。

そこで、本研究では保育園において外国にルーツをもつ乳幼児を受け入れる際に、どのような問題が生じているのか、またその課題を解決するためにどのような対策を行えば良いかを明らかにすることを目的に、アンケート調査とヒアリング調査を行った。第2章では、保育現場での現状を把握するために、広島県保育連盟連合会と外国にルーツをもつ乳幼児の受入れを経験した元保育士へのヒアリング調査(定性的調査)、第3章では、外国人留学生が多く、県内で最も外国人比率の高い広島県東広島市と、外国人技能実習生が多い呉市において、外国にルーツをもつ子どもの受入れ保育園とその保護者を対象に行ったアンケート調査(定量的調査)の結果を記し、第4章にはその結果のまとめを記した。第5章では、第4章までの調査結果を元に、保育園での自動翻訳機の使用体験、そして保育士と外国にルーツをもつ乳幼児の保護者とのコミュニケーション補助ツールを作成・配布した結果を記した。そして、第6章に本研究を総括し、まとめと今後の課題を記した。

2. 保育現場の状況を把握するためのヒアリング調査

2.1 広島県保育連盟連合会へのヒアリング調査

2.1.1 広島県保育連盟連合会へのヒアリング調査の概要

保育園における外国にルーツをもつ子どもの受け入れ状況について広島県内の状況を知るため、広島県のほぼ全ての保育園が加盟する「広島県保育連盟連合会」(<https://kenhoren.jp/>)の事務局を2020年9月18日に訪問し、広島県内の保育園における外国にルーツをもつ子どもの受け入れについてヒアリング調査を実施した。ヒアリング対象者は、保育士や園長を経験したのちに、広島県の幼児教育アドバイザーなどを経験している女性で、その経験を元に回答してもらった。ヒアリングの結果は次の通りであった。

2.1.2 広島県保育連盟連合会へのヒアリング調査の結果

両親のうちどちらか一方が日本人であれば保育士と保護者のコミュニケーションに問題がないと思われがちであるが、父親が日本人で母親が外国人の場合であっても問題が生じている。具体的には、大事な情報を父親に伝えても、父親がそれを母親に伝える必要があると思っておらず、伝わらないことがあった。情報がないことで不安を抱えている外国人の母親が多い。子育てに熱心な人ほど不安を抱えていると感じる。

また、生活習慣が異なることで、保育園の方針と合わなかったり、伝わりにくかったりすることがあるので、

言語・文化の違いを理解したうえで、その間を取り持ってくれる人がいると良い。特に、体調や食事のことは正確に伝える必要があるが伝わり難く困っている。

離乳食については、40年前に勤務していた保育園では離乳食を既に卒業した1歳半からしか子供を受入れていなかったため、その際には離乳食の問題はなかった。35年ほど前に6カ月児を受け入れるようになり、ミルクを作ったり、離乳食を作ったりするようになった。離乳食のガイドラインがあり、アレルギーのある子どもは共通の除去食を提供している。本人が食べられる食材であっても、他にアレルギーのある子どもが食べられない食材を全て抜いた食事をアレルギー食として提供するので、提供される食材が限られている。保育園によっては(特に公立の場合)、宗教はアレルギーとは異なるので、医師の指示書がないため、除去食に出来ないという事情があり、その場合お弁当を持参してもらうという保育園もある。

2.2 外国にルーツをもつ子どもの受入れを経験した元保育士へのヒアリング調査

2.2.1 外国にルーツをもつ子どもの受入れを経験した元保育士へのヒアリング調査の概要

2020年3月までに東広島市と呉市の両方の保育園で外国にルーツをもつ子どもの受入れをした経験のある保育士2名(元園長、元主任保育士)へのヒアリング調査を実施した。2020年8月20日に説明をしたが、回答者の希望により持ち帰って紙に書いて、1週間後に提出してもらった。ヒアリングの結果は次の通りであった。

2.2.2 外国にルーツをもつ子どもの受入れを経験した元保育士へのヒアリング調査の結果

外国にルーツをもつ子どもを受け入れた際に困ったことやその際の対応は、東広島市と呉市で異なっていた。東広島市では留学生の子どもが多く、両親ともに外国人で、英語は話せるが日本語が話せない人が多い。そこで、日本語が理解し難く、意思疎通が困難な場合は、スマートフォンのSMS(ショートメッセージサービス)を用いて、テキストメッセージを送り、それを翻訳アプリなどを用いて翻訳したり、翻訳カメラアプリを用いて書類の文字を翻訳して伝えるなどして意思疎通を行ってきた。絶対に間違っはいけない離乳食やアレルギーなどの確認に時間を要した。また、コミュニケーションに自信がないため、積極的に会話することが困難で、保護者に寄り添えていないと感じていた。

一方、呉市では仕事での滞在や国際結婚のために在住している人が多いため、日本語が話せる人が多かったが、文化の違いに戸惑うことが多かった。父親が日本人で、母親が中国人の家庭であっても、主に母親が世話をしているため、朝パジャマで登園する、水筒の中にジュースが入っているなど文化の違いで驚くことがあったが、一方的に日本の文化を押し付けないように配慮していた。

その他に、価値観の違い(衛生面やお風呂、着替えの

習慣などに戸惑ったり、食べ物（アレルギー）、薬、病気、生活習慣について話が通じない不安を抱えたりしながら仕事をしてきた。また、保育園に入ったばかりで一日中泣いている外国にルーツをもつ子どももおり、そういった際にかけてあげると落ち着く言葉を知りたい。

また、保護者とのコミュニケーションでは、「泣かずに過ごせた」や「〇〇を食べた」、「排泄」の有無や状態について知らせる言葉をよく使っていた。やはり体調のことを伝えることが多いので、体調が悪くなった後などに、その後の体調を確認する絵のカードや外国人の保護者が気軽に質問し易くなるようなツールがあると良いと思う。その場でのやり取りは保育士も理解できないことが多く、なんとなくお互い遠慮してしまうので、苦手をカバーしてくれるようなものがあると良い。子どもは慣れていくことで、意思疎通が出来るようになるが、保護者は言語での意思疎通がすぐ出来るようにならないので、スマートフォンの翻訳アプリを使って少し会話するが、大事なことはSMSで送ると、それを翻訳アプリ等で翻訳して理解してくれていた。

3. 東広島市と呉市の外国にルーツをもつ子どもの受入れ保育園とその保護者へのアンケート調査

3.1 調査全体の概要

実際に外国にルーツをもつ子どもを受け入れている保育園で困っている事や外国にルーツをもつ子どもの保護者とのコミュニケーションの取り方などを明らかにするため、東広島市と呉市の保育園とそこに通う外国にルーツをもつ子どもの保護者に対し、アンケート調査を実施した。2.1で訪問した広島県保育連盟連合会に加盟している東広島市の保育園は58園（公立27、私立31）（2020年10月現在）、呉市の保育園は50園（公立13、私立37）で、それに加えて東広島市から外国にルーツをもつ子どもと思われる人数を教えてもらった6園の合計114園にアンケートを送付した。その際、そこに通う外国にルーツをもつ子どもの保護者向けのアンケート用紙を同封し、保育園から外国にルーツをもつ子どもの保護者に配布してもらった。

保護者へ配布するアンケート用紙の数を決めるために東広島市と呉市に市内の各保育園に在籍する外国にルーツをもつ子どもの数を問い合わせたところ、両市とも「外国人の幼児数の把握はしていないため、正確な人数は分からないが、名簿を見て外国人らしき人を数えた数を伝える事は可能」との回答を得たので、市から提供された各保育園の外国にルーツをもつ子どもと思われる人数（256名）に予備の5部／園（東広島市の不明な園は10部）を加えた合計951通を各保育園に送付し、配布してもらった。アンケートはWEB（Microsoft Forms）でも回答できるように設定した。

調査対象とした東広島市は、外国人比率が4.3%（外国人総数8,107人）と広島県内で最も高く、他の市町村よりも早くから多くの外国人の受け入れを行っており、在留資格別にみると、「永住者（25%）」、「留学（22%）」、「技

能実習（17%）」、「家族滞在（9%）」の順に多く、「留学」が多いのが特徴である（2023年2月末時点、東広島市のHPより）。一方、呉市は、外国人比率が1.6%（外国人総数3,402人、2021年3月末時点、呉市のデータより）で、在留資格別にみると、「技能実習（34%）」、「永住（27%）」、「家族滞在（2%）」、「留学（0.3%）」の順に多く、「技能実習」の割合が高いのが特徴である（2019年7月の時点、呉市のデータより）。

3.2 保育園を対象にしたアンケート調査

3.2.1 保育園を対象にしたアンケート調査の概要

保育園には、2020年12月4日に114通のアンケートを送付し、2020年12月25日（実際は1月末まで回答あったので、それも解析に加えた）を締切りにした。締切りまでの22日間で62件（回収率54%、2件はWEBでの回答）の回答を得た。

3.2.2 保育園を対象にしたアンケート調査の結果

アンケート調査の結果、現在または過去に外国にルーツをもつ子どもを受け入れたことがある保育園は、アンケートに回答した東広島市の保育園の81%（26園）、呉市の保育園の90%（27園）であった（図1）。これは、東広島市の全保育施設数59園（2022年10月現在）の44%、呉市の全保育施設数80園（2022年10月現在）の33%以上で受け入れたことがあることを意味する。

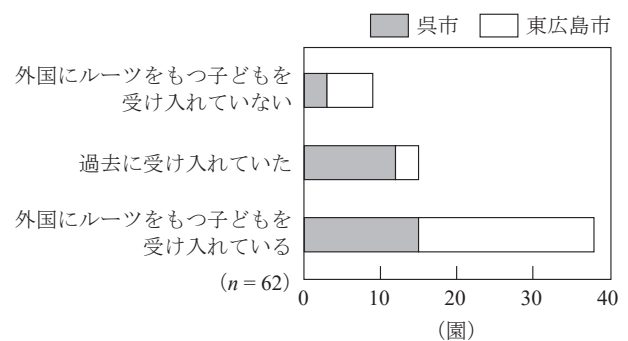


図1：外国にルーツをもつ子どもを受入れている保育園の数

次に、外国にルーツをもつ子どもを受入れたことがある保育園に対し、子どもの両親の出身国を尋ねたところ、東広島市では25以上の国または地域から77名（表1）、呉市では5カ国以上から32名（表2）の外国にルーツをもつ子どもが現在または過去に在籍していた。東広島市では、中国（21名）、ベトナム（11名）、フィリピン（5名）の順に、呉市では、フィリピン（16名）、中国（6名）、ブラジル（6名）の順に多く、0歳児クラス（ミルクから離乳食への移行を行う年齢）から3歳以上児クラス（言葉でのコミュニケーションが可能になる年齢）の全ての発達段階のクラスに外国にルーツをもつ子どもが在籍していたことがあった。

続いて、外国にルーツをもつ子どもを受け入れる際に、実施していることや確認していることを自由記述で尋ね

表1：クラス別外国にルーツをもつ子どもの両親の出身国（東広島市）

	0歳児クラス	3歳未満児クラス (0歳児クラスを除く)	3歳以上児クラス	合計
中国	4	8	9	21
ベトナム	4	3	4	11
フィリピン	－	2	3	5
韓国	－	2	2	4
ブラジル	－	1	3	4
アメリカ	－	1	2	3
モンゴル	－	1	2	3
パキスタン	－	1	1	2
ネパール	－	1	1	2
バングラディシュ	－	1	1	2
クルディスタン	－	1	1	2
シリア	－	1	1	2
インドネシア	－	－	2	2
インド	1	－	－	1
キューバ	1	－	－	1
アフガニスタン	1	1	－	2
アラビア	－	1	－	1
キルギス	－	1	－	1
台湾	－	1	－	1
マダガスカル	－	－	1	1
ロシア	－	－	1	1
フランス	－	－	1	1
スリランカ	－	－	1	1
イタリア	－	－	1	1
その他(国名記入なし)	1	2	－	3
合計	12	29	37	78

表2：クラス別外国にルーツをもつ子どもの両親の出身国（呉市）

	0歳児クラス	3歳未満児クラス (0歳児クラスを除く)	3歳以上児クラス	合計
フィリピン	1	7	8	16
中国	－	3	3	6
ブラジル	－	3	3	6
韓国	－	1	－	1
ウクライナ	－	－	1	1
その他(国名記入なし)	1	1	－	2
合計	2	15	15	32

たところ、保護者の日本語能力など「意思疎通の方法」についての記述が25件と最も多く書かれていた。次いで、宗教やアレルギーにより食べてはいけないものなど「食事」に関する内容が9件、そして通訳の同行を依頼するなどの「通訳」に関する内容が4件、「英語など多言語での資料の準備」に関するものが3件となっていた(表3)。

そこで、保護者と言語でのコミュニケーションが取れる場合、どの言語を用いているかを尋ねたところ、「日本語(49)」、「英語(17)」、「その他(6)」の順に回答が多かった(図2)。「英語」と回答した17園のうち14園は東広島市の保育園であった。「その他」には、「漢字(中国語)(2)」、「タガログ語(1)」などが書かれていた。

保護者と言語でのやり取りが難しい場合、どのよう

にコミュニケーションをとっているかを尋ねたところ、「ジェスチャーなど(26)」、「絵や写真などを使っている(21)」、「ポケトークや翻訳アプリを使う(19)」の順に多く、「子どもが通訳してくれる」と回答した園も15園あった(図3)。「その他」には、「通訳してくれる友人や保護者を介して(9)」や「やり取りできている(4)」、「対応可能な保育士がいる(1)」などが書かれていた。

次に、保護者とのコミュニケーションについて困っていることを「保育園から保護者に伝えたいこと」と「保護者に伝えたいこと」に分け、困り度を1(全く困っていない)から5(とても困っている)の5段階評価で回答してもらった。その結果、「保育園から保護者に伝えたいこと」では、東広島市も呉市も「保護者に子どもの様子を

表3：外国にルーツをもつ子どもを受け入れる際に、実施していることや確認していること

<p><意思疎通の方法 (25) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の日本語能力（日本語がわかる人が保護者や家族、友達にいるかどうか）(11) 保護者と身振り、手振りや実物を見せたりしながら丁寧に意思疎通をする (6) 平仮名なら全て読めるかなど園から配布するプリント類を読み書き可能か (5) 子どもが日本語が話せるか (1) 国籍・日常的に使用する言語 (1) 担任が子どもの使う言語を学ぶ (1)
<p><食事 (9) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 宗教やアレルギーにより食べてはいけないものの確認 (8) 家庭での食事内容 (1)
<p><通訳 (4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者が日本語が全く話せない場合は通訳が出来る方の同行を依頼 (3) 英語が話せる職員と一緒に入所説明をしている (1)
<p><英語など多言語での資料の準備 (3) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 英語での入所案内の書類を用意 (1) 英語、中国語、ブラジル語などの案内を用意 (1) 連絡ノートも英語バージョンを準備 (1)
<p><問題なし (4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 両親ともに日本語(又は英語)が理解できるので問題ない(4)
<p><その他 (4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 日本在住歴 (1) ピアスをしている女兒には、登園中は外せないか確認 (1) 保護者の出身国について調べる (1) 国際交流部広場から、情報提供をしてもらっている (1)

注：< >内は筆者らが分類した内容、()内の数字は人数を表す（以下、同様）。

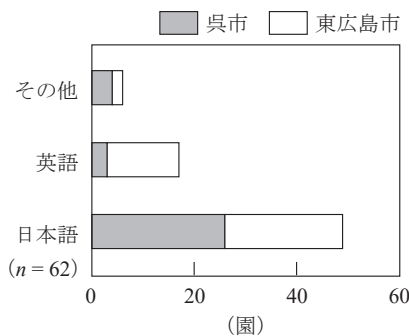


図2：保護者と言語でのコミュニケーションが取れる場合、どの言語を用いているか（複数回答可）

伝えられない（東広島市60%、呉市57%、以下同順）、「手続き（入園手続きなど含む）の説明が出来ない（56%、52%）」、「保育園のルールが分かってもらえない（52%、52%）」については5割以上、「緊急時の連絡が出来ない（44%、39%）」については4割以上の保育園が困っている（3以上）を選んでいた（図4）。東広島市では「手続きの説明が出来ない」を5（とても困っている）と答えた園が5園もあった（図4a）。また、両市とも約6割の園が「保護者に子どもの様子を伝えられない」で3以上を選んでいた。「その他」には、「持参物の依頼が難しい（レベル4の困り度）」、「行事についての説明が出来ない（レベル5

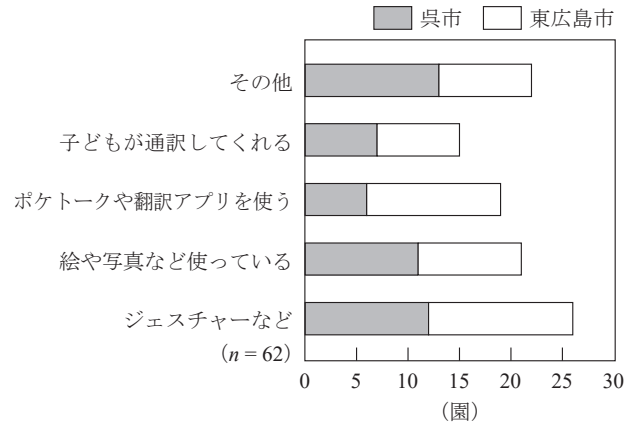


図3：保護者と言語でのやり取りが難しい場合、どのようにコミュニケーションをとっているか（複数回答可）

の困り度)」、「期限のある提出物が伝わらない」などが書かれており、日々のコミュニケーションに困っていることが浮き彫りとなった。

一方、「保護者に伝えたいこと」に関する質問においても、呉市では4割以上の保育園が全項目で困っている（3以上）を選んでいた（図5b）。東広島市でも、約半数の保育園が「病気などの様子が分からない（48%、43%）」で困っている（3以上）を選んでいた、「連絡帳の内容が分からない（35%、48%）」、「文化や宗教の違いが分からない（35%、48%）」も3割以上の保育園が3以上を選択していた（図5a）。「病気など急な休みの連絡がない（22%、39%）」で3以上を選択した園は東広島市では2割程度ではあったが呉市では4割にのぼり、急な休みの連絡が取れないことは、近年発生している通園バスや車への子どもの置き去りなどの事件を防ぐためにも、大きな課題となっており、見逃してはならない問題だと考えられる。

保護者とのコミュニケーションで困っていることをさらに詳細に確認するため、外国にルーツをもつ子どもの保護者とコミュニケーションがとりづらいことを自由記述で回答してもらったところ、「保護者との意思疎通（19）」に関する様々な困りごとが記述されており、「日々の持ち物（2）」や「行事の内容（3）」など日々の保育に支障をきたすような内容のほか、「感染症（1）」や「予防接種、薬の与薬依頼などの子どもの健康に関わる情報（2）」、「子どもの成長に関する情報（1）」、「急な発熱時のお迎えの電話連絡が出来ない（1）」など、子どもの健康に関わる情報が伝えられないという問題が発生していることが明らかとなった（表4）。さらに、コミュニケーションの問題だけでなく、「ハラル給食の対応について、保護者、園長、給食職員、担任の4者が協議する必要があるが、それぞれ知識がバラバラなので難しかった（1）」という内容も記述されており、宗教上配慮すべき事柄についても、情報提供が必要であることが伺えた。また、「英語を話せるようになりたい（1）」という切実な願いも書かれていたほか、「今後、英語圏の方が入所した場合、言葉が分からず、文化の違いもありとても不安に思う（1）」という、外国にルーツをもつ子どもを受入れることへの不

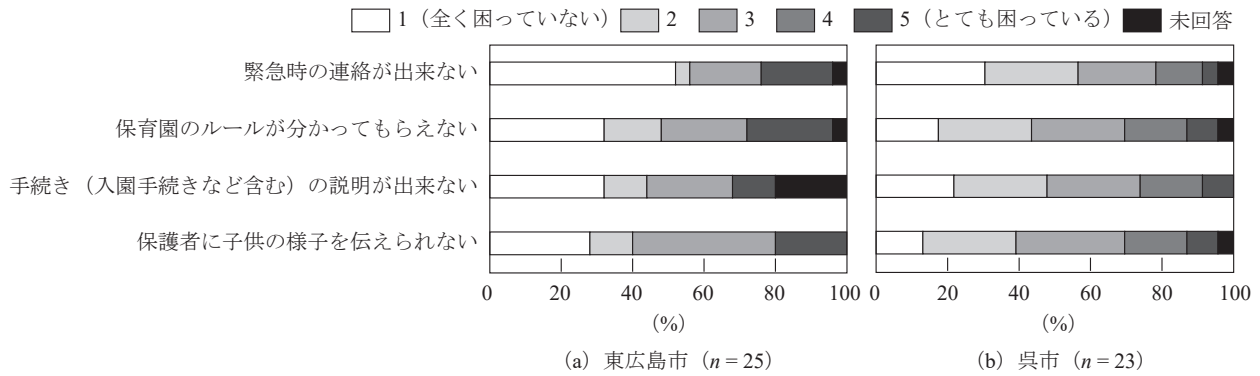


図4：保護者とのコミュニケーションのうち、「保育園から保護者に伝えたいこと」で困っていること

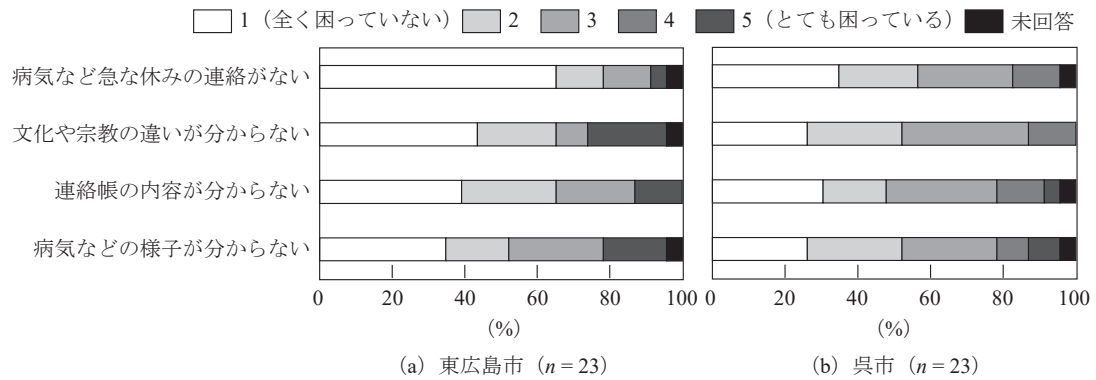


図5：保護者とのコミュニケーションのうち、「保育園から聞きたいこと」で困っていること

表4：外国にルーツをもつ子どもやその保護者とコミュニケーションがとりづらいこと（自由記述）

<p><保護者との意思疎通 (19) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 説明しても伝わっていないことが多く、困ることがある（考え方の違いもある）(7) 遠足や行事の内容を伝えられない (3) 禁止している服装や衣類、持ち物の準備が伝わらない（清潔でないこともある）(2) 予防接種や薬の与薬依頼の方法など日々の健康に関することが共有できない (2) 子どもの育ち（食事や排せつなど）が共有できない (1) 感染症について、登園できるものとできないものの違いについて伝わらない (1) 進級の手続きなど難しい手続きが伝えられない (1) 日々の子どもの詳細な様子が共有できない (1) 電話でのやり取りが出来ないので、(急に熱が出たときなど) 急な連絡が困難 (1)
<p><食事 (1) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ハラル給食の対応について、保護者、園長、旧職員、担任の4者が協議する必要があるが、それぞれ知識がバラバラなので難しかった (1)
<p><文化の違い (2) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 時間の感覚が違うので、決められた時間が守られないことがある (1) 朝食をしっかり食べさせるという園の方針が、文化の違いから理解されない (1)
<p><その他 (2) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 英語を話せるようになりたい (1) 今後、英語圏の方が入所した場合、言葉が分からず、文化の違いもありとても不安に思う。行政と連携し対応していくことが必要 (1)

安も書かれていた。

そこで次に、外国にルーツをもつ子どもの受入れに対してどの程度不安に感じているか、困り度を1（全く困っていない）から5（とても困っている）の5段階評価で回答してもらった。その結果、「食物アレルギーの情報が伝わらず、子どもが危険な状態に陥るかもしれない（74%、72%）」、「保護者と意思疎通が出来ない（74%、62%）」、「文化や宗教の違いが分からない（65%、59%）」、「個別の対応が必要なので、仕事量が増える（61%、48%）」の順に不安に思っている（3以上）を選択した園が多く、全項目で東広島市は6割以上、呉市は5割以上の園が不安に思っている（3以上）を選択していた（図6）。「食物アレルギーの情報が伝わらず、子どもが危険な状態に陥るかもしれない」に関しては、両市とも7割以上の園が3以上を選択し、2割以上の園が5を選択していたことから、食物アレルギーへの不安が特に大きいことが浮き彫りとなった。

その不安を少しでも軽減する方法を探るため、外国にルーツをもつ子どもを受け入れる際にあったらよいと思うサービスや道具を尋ねたところ、「保育に使う用語がイラストともに多言語で書かれたカード（指さしで会話できる）(40)」、「ポケトークなどの翻訳機 (39)」、「通訳をしてくれる人 (32)」、「受け入れる子どもの母国の文化・宗教などが簡単にわかる資料(25)」の順に多かった（図7）。「その他」には、「日本語教室」などの記述があった。

外国にルーツをもつ子どもやその保護者との会話でよく使うフレーズを自由記述で回答してもらったところ、

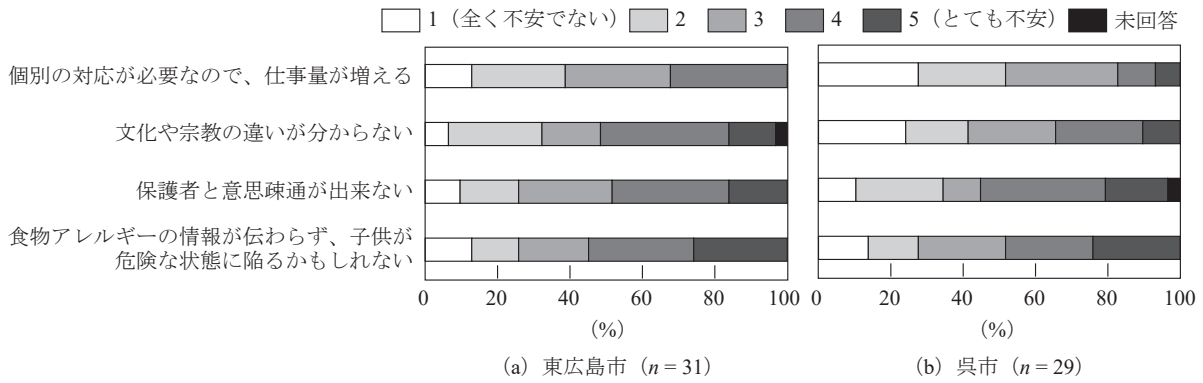


図 6：外国籍の親を持つ子どもの受け入れに対してどの程度不安に感じているか

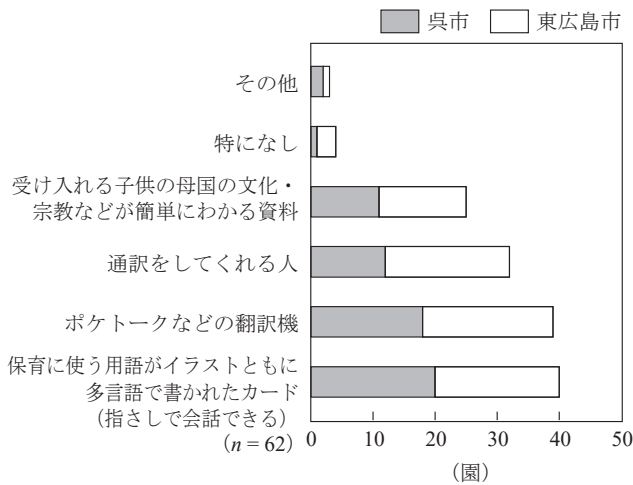


図 7：外国にルーツをもつ子どもを受け入れる際にあったらよいと思うサービスや道具 (複数回答可)

「○○ (お弁当、代替食、着替え、遠足の道具など) を△△までに持ってきてください (8)」や「行事の説明 (内科検診、歯科健診、検尿、運動会、遠足の弁当持参など) 子どもが新しいこと、初めてすることに不安をみせるため、事前に家庭において説明してほしい (2)」などの「連絡事項」についての記述が 14 件と最も多く、次いで「病院に行きましたか? お医者さんは何と言っていましたか? (3)」や「この病気は感染症のため (下痢が治まるまで)、保育園をお休みしなければいけません (3)」などの「病気、薬」に関する内容が 13 件と多かった (表 5)。その次に多かったのが、「給食は○○を (全部) 食べました (食べませんでした) (4)」や「今日は○○ (遊び) をしました (3)」などの「一日の様子」に関する内容の 12 件であった。どの内容も、乳幼児を安全に育てるために必要な情報共有に関わる内容であった。

最後に、外国にルーツをもつ子どもの受け入れに対して行政への要望などを自由記述で回答してもらったところ、「通訳・翻訳機・ (絵で意思疎通を補助する) ツール (17)」、「保護者と子どもの支援と情報提供 (5)」、「多言語の書類 (4)」、「入園手続き関係 (4)」の順に書かれている内容が多かった (表 6)。

表 5：子どもや親との会話でよく使うフレーズ (伝えるのが難しく困っていることなど)

<連絡事項 (14) >

- ○○ (お弁当、代替食、着替え、遠足の道具など) を△△までに持ってきてください (8)
- 行事の説明が難しい (内科検診、歯科健診、検尿、運動会、遠足の弁当持参など) 子どもが新しいこと、初めてすることに不安をみせるため、事前に家庭において説明してほしい。(2)
- 熱が出たので、迎えに来てください (2)
- ○時までに来てください (1)
- ○○を持って帰ります (1)

<病気、薬 (13) >

- 病院に行きましたか? お医者さんは何と言っていましたか? (3)
- この病気は感染症のため (下痢が治まるまで)、保育園をお休みしなければいけません。(3)
- 食欲はありますか? (1)
- 下痢は治まりましたか? (1)
- アレルギーはありますか? (1)
- 園で (インフルエンザ) の子が増えてきています。熱も高いので、病院行かれますか? (1)
- 熱が下がってから 24 時間がたって、登園してください (1)
- 保護者から「今日、保育園を休みます。」と電話があった際、休む理由を聞きたい。(1)
- 熱を測ってから来てください (1)

<一日の様子 (12) >

- 給食は○○を (全部) 食べました (食べませんでした) (4)
- 今日は○○ (遊び) をしました (3)
- 昼寝をしました (1)
- 転んで怪我をしました (1)
- おうちでは何をしますか? (1)
- 痛いところは? (1)
- 泣いていました (1)

<挨拶・体調 (7) >

- 体調は良いですか? (4)
- 熱はありませんか? (2)
- 週末は元気でしたか? (2)
- 明日も元気で来てね。(1)

<食事 (2) >

- (子どもに) 食材を説明する (1)
- (アレルギー、宗教食について) 食べられないものは何ですか? (1)

<その他 (1) >

- 母子手帳は持っていますか? 予防接種の確認 (1)

表 6：外国籍の親を持つ子どもの受入れに対して行政への要望など（自由記述）

<p><通訳・翻訳機・ツール (17) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 英語（中国簿、ポルトガル語）が話せる職員の配置（通訳に常駐して欲しい）(8) 翻訳機・ツールが欲しい (6) 保育園の手紙などを英語又は母語に翻訳してくれるサービス (2) 保育園に使う用語がイラストとともに多言語が書かれたカード。外国の文化や宗教など用意して下さると助かる (1)
<p><保護者と子どもの支援と情報提供 (5) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 市としての支援情報をまとめた冊子などの配布 (2) 親子が学べる日本語教室とその広報 (2) 発達障害があるときの連携 (1)
<p><多言語の書類 (4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 英語、母国語表記の書類（行政の書類、病気が治った時の治癒証明書、薬の依頼書）(4)
<p><入園手続き関係 (4) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 入園時に、出身国、宗教、話せる言語、食べられないもの、お世話をしてくれる日本人などの情報を事前に知りたい(3) 入所手続きの窓口になって欲しい。記入・提出まで行政が行って欲しい (1)
<p><その他 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 加配保育士の配置 (2)

行政への具体的な要望として、「英語、母国語表記の書類（行政の書類、病気が治った時の治癒証明書、薬の依頼書）(4)」、「入園時に、出身国、宗教、話せる言語、食べられないもの、お世話をしてくれる日本人などの情報を事前に知りたい (3)」（現状では、市が準備している保育園入園の申込書類にこれらの情報が書かれていないため、市から受入れる子どもの決定の通知を受けた後に行う面談で初めて知るという状況となっている）、「市としての支援情報をまとめた冊子などの配布 (2)」などの、あまり予算をかけずともすぐに対応できる要望も含まれていた。その他には、「加配保育士を配置して欲しい (2)」という記述もあった。通訳の設置や自動翻訳機の配布、加配保育士の設置などは予算や人材のことを考えるとすぐに対応することは難しいかもしれないが、行政が準備している保育園の入園の申込書類に国籍欄や日本語・英語能力・(宗教上の) 食事の配慮の有無の記入欄を設けることは予算もほとんど必要なくすぐに対応可能なことであり、早急な対応が望まれる。

3.3 外国にルーツをもつ子どもの保護者を対象にしたアンケート調査

3.3.1 外国にルーツをもつ子どもの保護者を対象にしたアンケート調査の概要

東広島市と呉市の保育園に通う外国にルーツをもつ子どもの保護者を対象にしたアンケート調査は、保育園対象のアンケートに同封し 2020 年 12 月 4 日に 951 通を送付して保護者に配布してもらい、2020 年 12 月 25 日（実際は 2 月 9 日まで回答があったので、それも解析に加えた）の締切りまでの 22 日間で 80 件（そのうち 14 件が WEB での回答。実際に外国にルーツをもつ子どもの保護者に

何部配布されたかは不明なので回収率は不明。）の回答を得た。アンケートは、外国人等にも分かり易い「やさしい日本語」と英語で作成した。アンケートの回答のうち、英語で記述されていた回答は筆者らが日本語に訳して集計した。

3.3.2 外国にルーツをもつ子どもの保護者を対象にしたアンケート調査の結果

アンケートの結果、回答者のうち 74 % (59 名) が東広島市、24 % (19 名) が呉市在住で、2 名は「広島市」、「今治市」であった (表 7)。東広島市の回答者の出身国は「中国 (17 名)」、「ベトナム (6 名)」の順に多く、「その他」を除くと 19 カ国の保護者から回答があったのに対し、呉市は、「フィリピン (7 名)」、「ブラジル (7 名)」、「中国 (5 名)」の 3 カ国のみであった。日本への居住理由は、東広島市は「留学 (19 名)」と「仕事 (19 名)」が 3 割程度で、残りの 4 割が「家族が日本にいるから (25 名)」となっていたのに対し、呉市は「家族が日本にいるから (13 名)」と「仕事 (7 名)」のみであった。日本居住年数は、東広島市は「9 年以上」の長期滞在者が 31 %、「3 年以上 6 年未満」が 29 %、「1 年以上 3 年未満」の短期滞在者が 19 % と 6 年未満の短期滞在者が半数程度と多いのに対し、呉市は「9 年以上」の長期滞在者が 68 % と多く、「1 年以上 3 年未満」の短期滞在者が 11 % と少ないという違いがあった。

初めに、子どもの母親の「日本語」と「英語」の能力を「話せない」、「少し話せる」、「簡単な会話ができる」、「自由に会話ができる」、「流暢」の 5 段階で回答してもらった。その結果、「日本語」が「話せない」、「少し話せる」と答えた人が、東広島市では 49 % だったのに対し、呉市では 21 % と少なく、東広島市の方が日本語能力が低い人の割合が高かった (図 8a)。一方、英語に関しては、「話せない」、「少し話せる」と回答していた人が、東広島市は 43 % だったのに対し、呉市では 59 % で、英語能力の低い人は呉市の方が多かった (図 8b)。父親の言語能力についても母親と同様の傾向で、日本語を「話せない」、「少し話せる」と答えた人が東広島市では 45 % だったのに対し、呉市では 38 % と少なかった (図 9a)。英語に関しても、東広島市は 40 % の人が、呉市では 78 % の人が、「話せない」、「少し話せる」と回答しており、母親と同様の傾向であった (図 9b)。このため、以後の解析の際には母親の日本語能力との関係のみを示すことにする。また、子どもの両親が日本語と英語以外に話せる言語は、両親の出身国と対応しており、中国語 (14)、タガログ語 (フィリピンの言語) (6)、ポルトガル語 (5)、ベトナム語 (5)、アラビア語 (5) の順に多く、20 以上の言語が記述されていた (表 8)。

次に、保護者が保育士とコミュニケーションをとる方法について尋ねたところ、母親の日本語能力に関わらず、主に日本語でコミュニケーションをとっていた (図 10a)。日本語が「自由に話せる」、「流暢」を選んだ人は「日本語」の他に使っている方法は「英語」、「子どもが通訳してくれる」を各 1 名が選択したのみで、他の方法は選択していなかった。それに対し、「話せない」「少し話せる」、

表7：回答者の属性（日本での居住地別）

質問項目	選択肢	東広島(人)	呉(人)	その他(人)*	合計(人)	割合(%)
保護者の出身国	中国	17	5	0	22	28
	フィリピン	2	7	2	11	14
	ブラジル	0	7	0	7	9
	ベトナム	6	0	0	6	8
	アフガニスタン	4	0	0	4	5
	シリア	4	0	0	4	5
	インドネシア	4	0	0	4	5
	カンボジア	2	0	0	2	3
	マラウイー	2	0	0	2	3
	ネパール	2	0	0	2	3
	ネパール	2	0	0	2	3
	スリランカ	2	0	0	2	3
	米国	2	0	0	2	3
	チェコとギリシャ	1	0	0	1	1
	エジプト	1	0	0	1	1
	インド	1	0	0	1	1
	イラク	1	0	0	1	1
	イタリア	1	0	0	1	1
	モンゴル	1	0	0	1	1
	パキスタン	1	0	0	1	1
アフリカの国	1	0	0	1	1	
その他	2	0	0	2	3	
子どもの年齢	0歳	1	2	0	3	4
	1歳	7	1	0	8	10
	2歳	8	7	1	16	20
	3歳	12	3	0	15	19
	4歳	18	4	0	22	28
	5歳	17	6	1	24	30
	6歳	10	6	1	17	21
日本居住理由	留学	25	0	0	25	31
	仕事	19	7	0	26	33
	家族が日本にいるから	19	13	2	34	43
	その他	3	2	0	5	6
日本居住年数	1年以上3年未満	11	2	0	13	16
	3年以上6年未満	17	2	0	19	24
	6年以上9年未満	9	1	1	11	14
	9年以上	18	13	1	32	40
	未回答	4	1	0	6	8
合計		59	19	2	80	100

注：※「その他」の居住地は、「広島」と「今治」。

「簡単な会話ができる」を選択した人は、「翻訳アプリや翻訳機を使う（28名）」、「ジェスチャーを使っている（21名）」を選択しており、「コミュニケーションが取れていない」という回答を選んだ人も5名いた。一方、母親の英語能力はコミュニケーションの方法に影響を与えておらず、英語能力に関わらず、翻訳アプリやジェスチャー、絵や写真などを使っていた（図10b）。

続いて、保育園で困っていることを尋ねたところ、日本語能力が「流暢」な人は保育園で困っていることを一つも選択していなかったが、それ以外の人は困っていることを選択していた（図11a）。「離乳食が母国と違う」を

選択した人が14名と最も多く、次に「保育園の先生に子どもの様子が伝えられない」ことを選択した人が13名と多かった。次いで「書類の内容が分からない（8）」、「保育園のルールが分からない（6）」、「病気などの連絡が出来ない（2）」の順であった。一方、英語能力別に見てみると、英語が「流暢」な人も「保育園の先生に子どもの様子が伝えられない」を選択していた（図11b）。自由記述欄には、「ハラルフードが重要な問題だ」、「インドでは先生が野菜又は、両親がリクエストしたものを提供する。日本でも家でどのようにしているか両親に確認して欲しい」などの食べ物に関する事柄のほか、「書類等がすべて

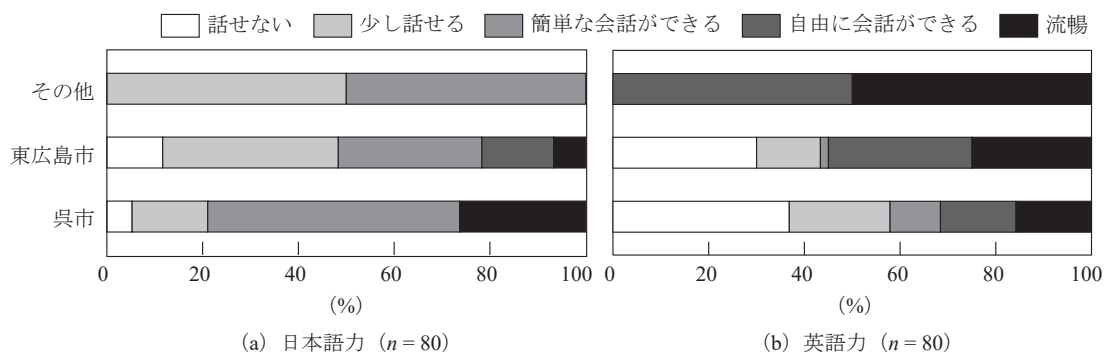


図 8：子どもの母親の日本語と英語の能力

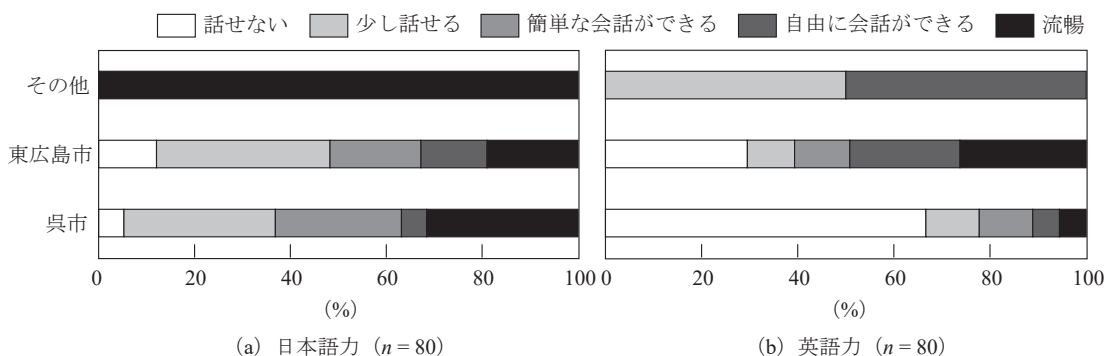


図 9：子どもの父親の日本語と英語の能力

表 8：子どもの両親が日本語・英語以外に話せる言語

言語	呉 (人)	東広島 (人)	その他 (人)	合計 (人)
中国語	3	10	1	14
タガログ語 (フィリピン人の言語)	4	1	1	6
ポルトガル語	5	0	0	5
ベトナム語	0	5	0	5
アラビア語	0	5	0	5
インドネシア語	0	4	0	4
シンハラ語 (スリランカの言語)	0	3	0	3
Chichewa (マラウイの言語)	0	2	0	2
クメール語	0	2	0	2
ネパール語	0	2	0	2
ペルシャ語	0	2	0	2
モンゴル語	1	1	0	2
チェコとギリシャ	0	1	0	1
Kurdish (クルド人の言語)	0	1	0	1
Pashto, Dari, Hindi (インドの言語)	0	1	0	1
Phasto (アフガニスタンの言語)	0	1	0	1
Little bit of Ilokano, Kapampangan (フィリピン人の言語)	1	0	0	1
タミル語 (インド・スリランカの言語)	0	1	0	1
Urdu (パキスタンの言語)、Punjabi (インドの言語)	0	1	0	1
母語	0	1	0	1
合計	14	44	2	60

日本語（特に漢字は難しく理解できない）なので、自分で記入することが出来ない。日本人の夫に頼むが申し訳なく思う。英語で書類が作成されていたら自分で出来るので、英語の書類が欲しい、「行事が多い」、「人種差別」などが書かれていた。

保育園で心配な事を尋ねた質問では、保育園で「心配なことはない」を選んだ人が45名と最も多かったが、「食べられないものが給食に出るかもしれない(13)」、「保育園の先生とコミュニケーションが取れない(12)」、「友達が出来るか不安(10)」を選んだ人はそれぞれ10名以上、

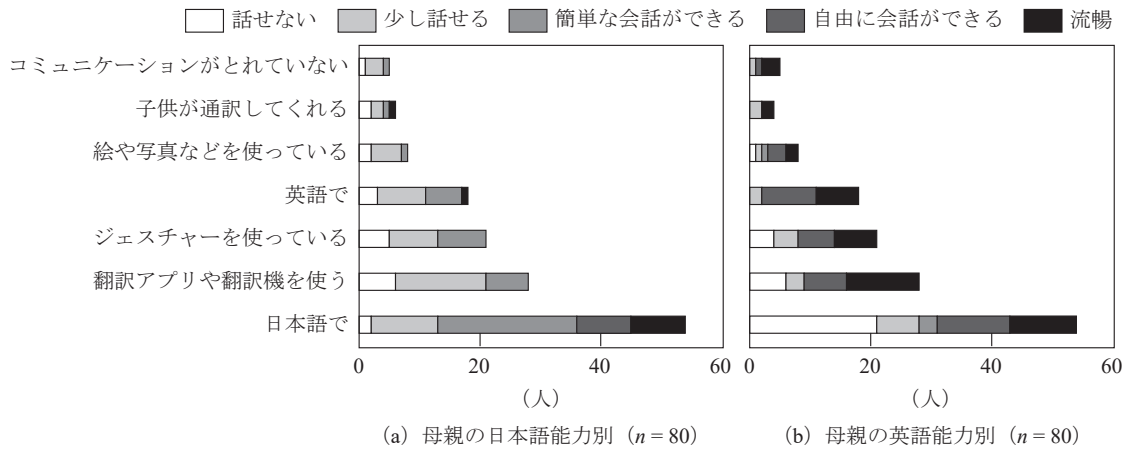


図 10：保護者が保育士とコミュニケーションをとる方法（母親の日本語能力別）（複数選択可）

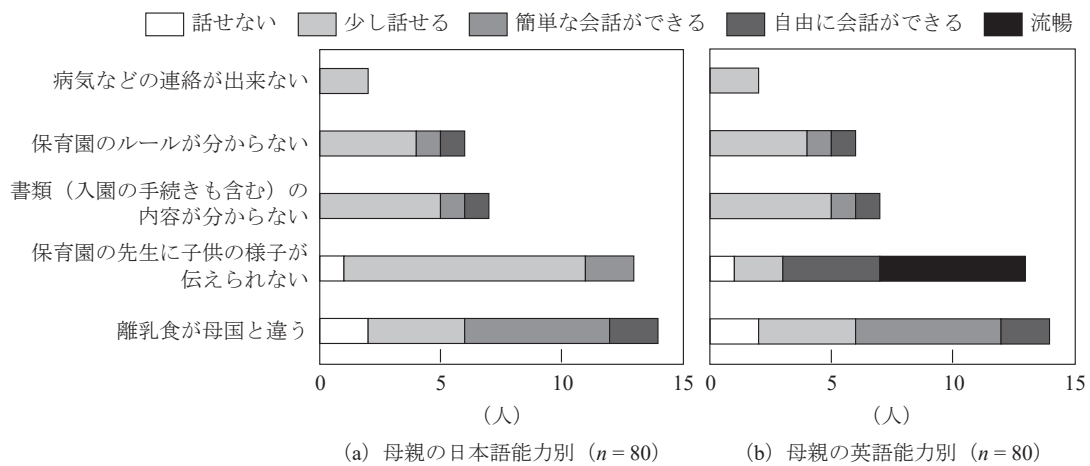


図 11：保育園で困っていること（母親の言語能力別）（複数選択可）

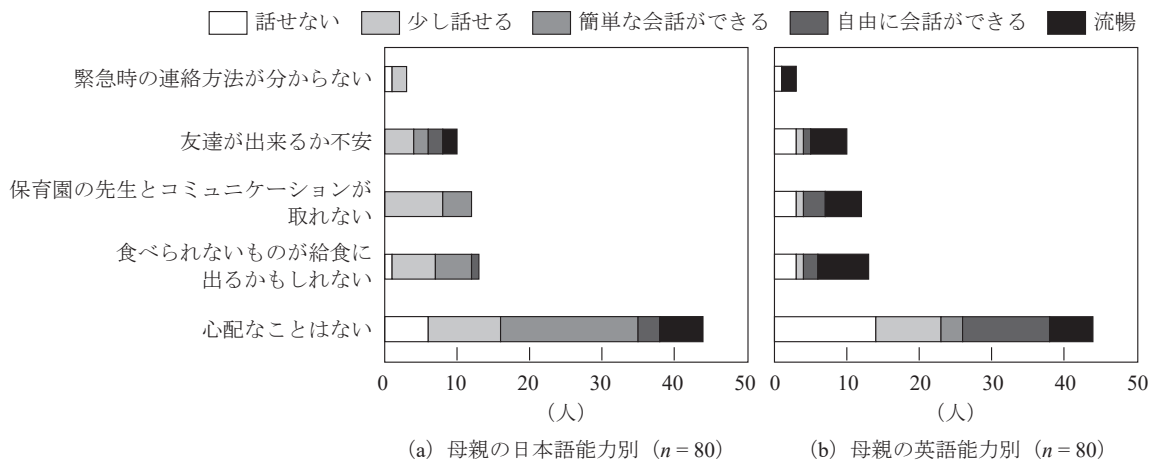


図 12：保育園で心配なこと（母親の言語能力別）（複数選択可）

「緊急時の連絡方法が分からない」を選んだ人も3名おり、その選択をしている人の日本語能力が低いということは注意すべき点である（図 12）。自由記述欄にも、「日本語でコミュニケーションが取れないこと」、「緊急連絡を試したことがないので、ちゃんとできるか心配。とても難しいけど、必要なことだと思うので必要な時には最善を尽くしてみようと思う」というコミュニケーションに関

する内容が書かれていた他、「子どもがよく食べたり、寝たりしているか」、「トイレの習慣の違い」、「人種差別。お寺や神社に遠足するときみんなで参りすることになります。けれども、私の宗教では一札をしてはいけません。子どもにもさせたくないのです。」などの子どもの様子や宗教の違いに関わる事柄も書かれていた。

保育園があればよいと思うサービスや道具を尋ねた質

問では、「翻訳アプリや翻訳機」を選んだ人が27名と最も多く、次いで「通訳をしてくれる人(20)」を選んだ人が多かったが、日本語能力に関わらず、「絵と言葉が書かれたカード」、「母国の文化・宗教などを説明する資料」を選んだ人もそれぞれ16名、15名いた(図13)。自由記述欄には、「もし可能であれば、英語で書かれた書類を準備して欲しい。それがあれば、自分で書類を読み、理解して記入することが出来るから。」「英語で注意書きや書類を作成して欲しい」という英語表記を望む意見のほか、「保育園で英語の基礎教育をして欲しい」、「日本の文化を説明してもらいたいです。日本では宗教が教育に混ざっていると思いますから。節分の日や神社の参拝などは、日本の文化の一部ですが、本当の意味や理由や歴史を教えてもらいたいです。」といった意見も記述されていた。

次に、保育士とどのようなコミュニケーションを取っているのかを探るため、保育園の先生に伝えたい言葉やよく使う言葉を自由記述で回答してもらったところ、「子どもの一日の様子(22)」についての記述が最も多く、次いで「挨拶・体調(21)」、「連絡事項(7)」の順に記述が多かった(表9)。そして、保育園の先生への「お礼とお詫び(5)」も5名が記述しており、その中には日本語が話せないことを申し訳なく感じていることが伺える「日本語が上手なくてごめんなさい(1)」という記述もあった。その他に、「たまに先生方は外国人と話すのをためらっていますが、日本人と話すのと同じように扱うべきです(1)」という意見や、「私たちは子どもの保育園での様子についてもっと詳しく知る必要があります(何をしたのか?彼がどう感じたか?など)」などのコミュニケーションに起因する問題についても記述があった他、普段のコミュニケーションの方法(連絡帳に書く、スマートフォンのGoogle翻訳を使う)などについての記述もあった。

今後の対策について探るため、子育てに対しての市や国への要望などを自由記述で回答してもらうと、「食事・教育などへの要望(7)」についての記述が最も多く、次いで「英語での情報提供(6)」、「費用と手続き(6)」、「英語の話せる先生・通訳(5)」という順になっていた(表10)。しかし、「英語での情報提供(6)」と「英語の話せ

る先生・通訳(5)」を合わせると、最も多く、コミュニケーションを補助する目的で「Webカメラを用いて、オンラインで子どもの活動を見られるようになってほしい(1)」や「オンラインでのコミュニケーションサポート(1)」を要望する意見もあった。

最後に、子育てで困っていることなどを自由に書いてもらったところ、「保育園の先生方への感謝の言葉」が8件と最も多く、次いで「日本の保育に満足している」という内容が4件あった一方で、日本から帰国した後のことも考え、「日本語だけでなく、英語の教育をして欲しい。そうすれば日本で長く働ける。」という意見も3件あった。その他に、「行事の意味を知りたい」という声や「(宗教上の理由から)神社での一礼をさせないで欲しい」という意見、「両親が母国にいるため頼れる人がいない」という記述もあり、すぐに対応が難しいこともあるが、外国にルーツをもつ子どもを受入れる際に事前に知り、準備しておけば、対応可能な要望もあることが明らかとなった。

4. 保育現場へのヒアリング調査とアンケート調査のまとめ

本研究では、保育園において外国にルーツをもつ乳幼児を受け入れる場合に、どのような問題が生じているのか、またその課題を解決するためにどのような対策を行えば良いかを明らかにすることを目的として、広島県の呉市と東広島市を対象に調査を行った。その結果、以下のことが明らかとなった。

- 東広島市、呉市共に、市では外国にルーツをもつ子どもがどこの保育園に何名在籍しているかという情報を所有しておらず(保育園に通う子どもの名簿はあるが、国籍などの確認はしていない)、保育園側は市から受入れる子どもの決定の通知を受けた後に行う面談で意思疎通可能な言語や食事の配慮の確認をしているという状況であった。そのため、子どもの受入れを市から保育園に依頼する時点で国籍や言語能力、食事の配慮などが分かるようにして欲しいという要望が保育園から

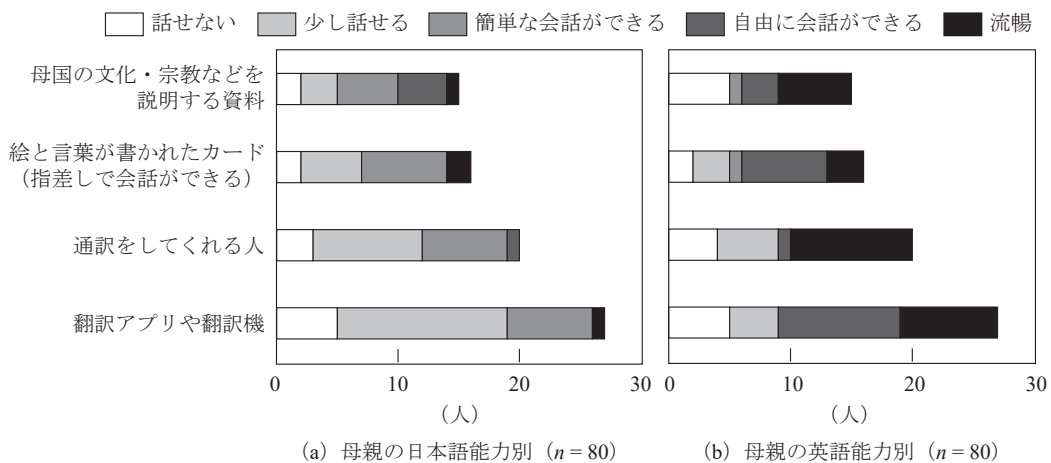


図13: 保育園にあればよいと思うサービスや道具 (母親の言語能力別) (複数選択可)

表 9：保育園の先生に伝えたい言葉やよく使う言葉

<p><一日の様子 (22) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園での子どもの様子はどうか? (13) 何して遊びましたか? (2) (食事や保育園で)何か問題はありますか? (2) よく食べた(ミルクを飲んだ)か?おかずについて (2) 誰かと喧嘩しましたか? (1) 子どもはよく寝ましたか? (1) 服装は快適そうでしたか? (1)
<p><挨拶・体調 (21) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶(おはようございます。さようなら。ありがとうございます。お願いします。)(17) ” 鼻水が出ています、風邪をひきました (1) 子どもの体調のこと (1) ワクチン (1) 病気や薬について (1)
<p><連絡事項 (7) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 質問があります。教えて下さい。(2) 休みます (1) これは何ですか? (1) 子どもが保育園に行きたがりません。なぜでしょう? (1) お迎えの時間 (1) 準備物について (1)
<p><お礼とお詫び (5) ></p> <ul style="list-style-type: none"> いつも子どもをみてくれてありがとうございます (1) 日本語がうまくなくてごめんなさい (1) 先生お疲れさまでした (1) 子どもの至らない点について我慢して教えてあげて下さい (1) 保育園の先生方は優しいし礼儀正しいです。保育園の先生方は、しっかりお世話をしてくれ、食事を与えてくれ、良い方です。子どものお世話をしたり教育をしてくれてありがとうございます。先生やクラスの子どもとトラブルが起きないことを願っています (1) ”
<p><その他 (10) ></p> <ul style="list-style-type: none"> 知りたいことをノートに書いて先生に伝えます (2) いつもスマートフォン (Google 翻訳) を使って伝えています (1) 「定型の質問」を知りたい (1) 私たちは保育士さんに英語で話しますが、先生たちは日本語を話します。英語に訳そうとしてくれるので、私たちは何を伝えようとしているか推測しています (1) 保育園の先生と話をするときは、いつも日本語で話します。私が理解できなかったり、言葉を知らない場合には、繰り返してもらいます (1) 私たちは子供の保育園での様子についてもっと詳しく知る必要があります (何をされたのか?彼がどう感じたか?など) (1) たまに先生方は外国人と話すのをためらっていますが、日本人と話すのと同じように扱うべきです (1) 外国人の子供ですが外国人の子供と思わないようにお願いします。言葉の問題、文化の違いがあります (1) 子どもの日本語能力 (1) 子どもは日本で生まれているので、日本語の方が上手です (1)

あがっていた。

- 現在または過去に外国にルーツをもつ子どもを受け入れたことがある保育園は、東広島市の全保育施設の 44 %、呉市の全保育施設の 33 % 以上に上り、「保護者と意思疎通が出来ない (74 %、62 %)」ことやそれにより「食物アレルギーの情報が伝わらず、子どもが危険な状態に陥るかもしれない (74 %、72 %)」ことなどを不安である (5 段階評価で 3 以上) と回答した保育園が両市

表 10：子育てに対しての市や国への要望など

<p><食事・教育などへの要望 (7) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ハラルフードの提供システムの早期構築 (3) ストレスや精神的不適格性を持った子供の支援 (1) ・病気や怪我、大災害などの緊急時に、市から直接連絡があるのか、それとも保育園から保護者に連絡があるのか? (1) ・中級程度の英語教育は必要 (1) ・Web カメラを用いて、オンラインで子供の活動を見れるようになってほしい (1)
<p><英語での情報提供 (6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての情報提供と書類を英語に (3) ・保育園で英語の掲示 (予定表や手紙含む) や情報提供をすべき (2) ・両親は英語で話します (1)
<p><費用と手続き (6) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・預けるのに両親が必ず仕事していること、また毎年の在職証明などの資料提出が面倒 (2) ・保育料がとんでも高い (無償化を希望) (2) ・所得制限をなくし、全ての親に平等なサービスを与えて欲しい (1) ・保育園の内部ルールがとんでも複雑なので、出来るだけシンプルにして欲しい (1)
<p><英語の話せる先生・通訳 (5) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の両親に保育園のルールや日常生活について説明できる英語の通訳を (特に入園手続きや入園時期に) 全ての保育園に配置すべき (3) ・〇〇市は特に子持ちの外国人 (〇〇大学の留学生) が多いので、英語が話せる先生を各保育園に最低 1 名設置するなど、もっと気配りをして欲しい (1) ・保育園の先生と子供の親のコミュニケーションをサポートするオンラインサービスがあれば、よりコミュニケーションがうまくいくと思う。なぜなら、オンライン化すると、翻訳ツールが使えるから。そして、もし保育園がオンライン化すれば、保育園と保護者のお互いの理解がより深く、早く出来るようになる (1)
<p><その他 (11) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対する先生方の努力に本当に感謝しています (2) ・外国人差別問題を解決したい。肌の色について悪口を言われた (2) ・子どもにたくさんの友達を作り、たくさんの日本語を覚えて欲しい (1) ・子どもの多様性をもっと豊かに受け入れる教育に (1) ・冬期は子供の受入れと迎えを素早く (1) ・〇〇市でふだん幼児が遊べる施設を増やしてほしい (1) ・保育士が不足している。もっと人数が欲しい (1) ・少子化しているが、保育施設が足りません (1) ・保育士の給料を増やすべきです。(1)

とも 6 割以上に上っていた。また、「文化や宗教の違いが分からない (65 %、59 %)」ため、受け入れる子どもの親の国の文化を紹介する資料や市の外国人住民支援体制の情報提供を望む声に加え、加配保育士を配置して欲しいという要望があった。

- 外国にルーツをもつ子どもの保護者は、保育園でのコミュニケーションが主に日本語で行われているため、日本語能力の低い人ほど、「保育園の先生に子どもの様子が伝えられない」や「書類の内容が分からない」、「保育園のルールが分からない」などで困っていた。また日本語能力に関わりなく、「離乳食が母国と違う」ことを心配する意見もあり、英語の書類や掲示、通訳・コミュニケーション補助ツール、自国の文化を紹介する資料、

ハラルフードの提供の要望が多数あった。

このように、保育園では外国にルーツをもつ子どもを受入れる際に必要な、宗教や言語、食事の配慮などの情報が得られていないだけでなく、日々のコミュニケーションに困っている状況で、通訳や翻訳機の支給などを必要としていることが明らかとなった。保育園や保護者からの要望のうち、子どもの受入れの時点で国籍や言語能力、食事の配慮などの事前把握は市の申込書類にそれらの記入欄を追加することで対応可能であり、市の外国人住民支援体制の情報提供も、追加費用も必要なく、すぐに対応できることであるので、早急な対応が望まれる。また、行政文書の英語化や、加配保育士の配置など現場の要望にあった支援を進めることで、実際に外国にルーツをもつ子どもを受け入れている保育園や保護者の不安や負担を減らして行くことが急務であると考えられる。

本研究では現在外国にルーツをもつ子どもを受入れている保育園が直面している問題を一定程度把握し、分析することができた。しかしながら、今回3.3で行った外国にルーツをもつ子どもの保護者に対するアンケート調査は、「やさしい日本語」と英語のみで行ったため、母国語以外でアンケートに回答している保護者が多いと考えられ、母国語以外では表現が難しい事象や、文化が異なることに由来する様々な問題について、回答しきれなかった可能性もあり、本研究で捉えきれない問題も数多く存在することを否定できない。また、「やさしい日本語」と英語での回答が難しいより困難な状況にあると考えられる保護者の状況はこのアンケートでは調べることが出来ない。保育園に通っていない乳幼児は保護者が自宅で保育をしていると考えられるが、その場合子どもの発達や子育てについて、保育士等からの助言を受ける機会がなく、子育てに悩んだ時の相談を行うことが出来ない可能性も高い。また、乳幼児を育てる保護者が子育ての悩みを気軽に相談できる場所の一つに地域子育て支援センターがあるが、筆者が自身の子育てのため2017～2018年に外国人住民が多い東広島市で地域子育て支援センターに通う中で外国にルーツをもつと思われる子どもとその保護者にはほとんど遭遇したことがなく、外国にルーツをもつ子どもと保護者はこのような行政支援から漏れてしまっている可能性も考えられる。こうした課題認識のもと、今後さらに調査を行い、更なる課題の発掘を行なっていきたい。本稿には記していないが、外国にルーツをもつ子どもを支援している地域団体の方からは、外国にルーツをもつ子どもは日本語が理解できないためにコミュニケーションがうまくできず発達障害と間違えられたり、コミュニケーション不足により発達に遅れのある子どもが見落とされ適切な支援に繋がっていないことなども報告されている。平(2015)は、外国にルーツをもつ幼児が、日本語の単語が理解できていないために、絵本の内容を理解できず、絵本の読み聞かせを長く聞くことが出来ない状況にあり、それが小学生になると学習に躓いてしまう原因にもなっており、外国にルーツ

をもつ子どもには幼児期から意識的に言語指導をしていくことが重要だと指摘している。このように、外国にルーツをもつ子どもの教育について体系的に考えていくことも今後必要になってくるであろう。

5. 保育園の支援のための提案

5.1 保育園における自動翻訳機の運用の課題

3.2と3.3のアンケートで要望の高かった自動翻訳機の保育園への導入に向けた課題を探るため、実際に外国にルーツをもつ子どもを複数受け入れている保育園で自動翻訳機を使用してもらった。翻訳機は、使用時にWi-Fiに接続し、事前に指定した言語で話すと、それをインターネット上にある文例を元に指定した別の言語に翻訳して表示・読み上げをしてくれる「FreeTalk(合同会社DMM.com)」を使用した。2020年9月30日に保育園に2台持参したが、保護者と保育士が主に会話をする部屋にWi-Fiが届かないため、Wi-Fi中継器を購入して10月22日に保育園に渡し、2月の初旬に使用した感想を教えてもらった。

その結果、「中継器をつけてもなかなかWi-Fiが繋がらないうえ、起動に時間がかかるので不便だった。また保育用語は、別の言葉を使えば良いので、保育用語が翻訳できなくても問題はなく、スマートフォンを使う方が早いし使い勝手が良いので、結局スマートフォンを使ってしまっていた。」という理由からすぐに使われなくなってしまったそうである。このことから、自動翻訳機を使用する際には、Wi-Fi環境にも注意する必要があることが分かった。

5.2 コミュニケーションを補助するツールの提案

3のアンケートでは通訳や翻訳機の配布の要望が高かったが、これには予算もかかるため、すぐに全ての保育園で対応できるわけではない。そこで、3.2の保育園対象のアンケートで、最も要望の高かった「保育に使う用語がイラストともに多言語で書かれたカード(指さしで会話できる)」(以下、「コミュニケーション補助ツール」または「ツール」と記す)と「母国の文化・宗教などを説明する資料」(以下、「食事をする上での注意点などの説明シート」または、「シート」と記す)を作成し、3.2のアンケート協力をお願いをした保育園に配布した。

5.2.1 コミュニケーション補助ツールの作成

コミュニケーション補助ツールは、「やさしい日本語」、「英語」、「中国語」とイラストで構成した。「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にも分かり易い日本語のことである。「やさしい日本語」は災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されたのが始まりで(森田, 1998)、松田他(2000)によると、実際に「やさしい日本語」を用いて日本語能力が初級後半から中級前半程度の外国人被験者へ聴解実験を行ったところ、通常のニュース文の理解率は約30%であったが、「やさしい日本語」を用いたニュースでは90%以上になるなど、理解率が著しく高まることが確認されていることか

ら、外国人住民に対する情報発信は英語のみでなく、「やさしい日本語」で行うことが重要だと指摘されている（ロング, 2012）。筆者らが2019年に外国人住民向けに行った災害時の情報提供についてのアンケート調査においても、英語又は「やさしい日本語」での情報発信を望む意見が書かれていた（小倉他, 2020）。こうした背景を踏まえ、出入国在留管理庁と文化庁では、共生社会実現に向けたやさしい日本語の活用を促進するため、2020年に「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」を作成している（出入国在留管理庁・文化庁, 2020）。本ツールの作成はこのガイドラインを参考にした。イラストは、主に「かわいいフリー素材いらすとや」（<https://www.irasutoya.com/>）のイラストを使用した。

ツールは「送迎時（体調確認、子どもの様子の伝達）」、「病気（熱がある際の対応）」、「アレルギー（有無と該当の食品の確認）」の3場面と、保育の現場でよく使うフレーズを「体調が悪い時」、「日常生活」、「怪我など」の3つの場面ごとにまとめ、使用したい場面がすぐに分かるようインデックスを設けた。ツールのサイズは、保育の現場での使い易いように、A5サイズに設定した（図14～17）。

《目次/Contents》	
送迎時/接送時/At pick-up	P1-2
病気/生病/Disease	P3-5
アレルギー/過敏/Allergy	P6-7
* フレーズ集 *	
(日本語 英語 中国語)	
体調が悪いとき	P8
日常生活	P9-10
怪我など	P11-12

図 14：ツールの目次

How was she/he today?
她/他今天状态怎么样?
今日の彼女/彼の様子は?

one time 1次 いちど 1回	a little 很少 すこ 少し	Whole time 总是 ずっと	many times 很多次 おほい 何回も
played with friends 和朋友玩 友達と遊ぶ	quarreled with friends 和朋友吵架 友達とけんかをする	tripped 摔倒 転んだ	was less energetic 没精神 少し元気がない

図 15：送迎時のページの一部

Is she/he allergic to anything?
Is there anything he/she doesn't/can't eat?

她/他对什么东西过敏吗?
有因为宗教原因不能吃的食物吗?

かのじょ/かれ なに た もの
彼女/彼は何か食べ物のアレルギーがありますか?
しゅうきょう などの りゆう た
宗教などの理由で食べれないものがありますか?

YES

◯

NO

✕

図 16：アレルギーのページの一部

怪我など

Your child has been bitten by a mosquito on his/her (arm・leg) .
您家孩子被蚊子咬了(胳膊/腿)。
蚊に(腕・足)を刺されました。

Your child appears to have itchy (buttocks・arms・legs) .
您家孩子(屁股/手脚/脚)痒痒。
(お尻・腕・足)がかゆがっていました。

Your child fell over/tripped and has skinned his/her (knee・hand) .
您家孩子摔倒了, 擦伤了(膝盖/手)。
転んで(膝・手)をすりむきました。

Your child hit his/her (arm・leg・head) on ○○.
the shelf/playset/toy.
您家孩子的(手臂/脚/头)碰到○○了。
玩具/玩耍用的器具/玩具
○○に(腕・足・頭)をぶつけました。
棚/遊具/おもちゃ

図 17：怪我などのフレーズのページ

5.2.2 食事をする上での注意点などの説明シート（宗教などについての資料）の作成

3のアンケートにおいて「文化や宗教の違いを説明する資料が欲しい」との意見が多く挙げられたため、キリスト教・イスラム教・ヒンドゥー教・仏教・ビーガン・ベジタリアンに関する「食事をする上での注意点などの説明シート」の作成を行った（図18～20）。このシートは外国にルーツをもつ子どもを受け入れる際に、入園前の面談時などで宗教や信教の違いによる注意事項を保護者の方と確認する際に主に日本人の保育士が使用すること

What is your religion?
あなたの宗教は何ですか?

Christianity キリスト教 P2	Islam イスラム教 P3,4	Vegetarian ベジタリアン P7
Hinduism ヒンドゥー教 P5	Buddhism 仏教 P6	Vegan ビーガン P7

※本シートの内容は、一般的な宗教に関するものを紹介したものです。人により厳格さや事情が異なる場合がありますので、ご使用の際には個別に確認頂くことをお勧めします。

図 18：宗教や信教を尋ねるページ

Islam

いすらむきょう
イスラム教

イスラム教徒（ムスリム、Muslim）について
ムスリムは、5つの基本行為（五行）、および定められた行動規範を守ることが義務とされている。

<五行>

- 1) 信仰の告白（神を信じることを声に出す）
- 2) 礼拝（1日5回お祈りする）
- 3) 喜捨（富める者は貧しい者に与える）
- 4) 断食 サウム（イスラム暦9月の1ヶ月間日中の飲食を断つ）
- 5) 巡礼（一生に一度は聖地へ行く）

ラマダーン（Ramadan, رمضان）
（イスラム暦の第9番目の月の名称）
毎年約1ヶ月間の断食をする。日の出前から日没まで、水を飲むことや一切の飲食が禁じられており、この期間の食事は通夜、日没後（夜間）と夜明け前にとる。
※回復の見込みのない重病人や乳幼児、体調が優れない者（高齢者、重労働者、妊婦、生理中・授乳中の女性）は断食をしなくてもよい。6〜7歳頃から断食を始める。

イスラム暦と西暦は異なるので、毎年確認が必要。
※2021年は4月13日〜5月12日（毎年10日程度早くなる）

礼拝（サラート）
毎日5回決められた作法・方向・時間内にお祈りするよう義務付けられている。
礼拝の前には、定められた順序に従い手、足、顔などを水で洗い清める。
※偶像崇拝は禁止されている（神を絵に描いたり石像などを作ってもダメ）

神社やお寺へのお参りを極める人もいます（人により厳格さが異なる）

参考：一般社団法人ハラール・ジャンパ協会（<https://jhba.jp/halal/islam/>） 2021年11月8日閲覧

図 19：イスラム教の食べ物と礼拝や断食などについて説明するページ

ベジタリアンの分類

肉類を食べない人
Vegetarian
ベジタリアン

○：食べる
×：食べない
—：どちらともいえない

	肉類 Meat	魚介類 Seafood	卵 Egg	乳製品 Dairy product	五辛 Five pungent roots
オボ・ベジタリアン Ovo vegetarian	×	×	○	×	—
ラクト・ベジタリアン Lacto-vegetarian	×	×	×	○	—
ラクト・オボ・ベジタリアン Lacto-ovo vegetarian	×	×	○	○	—
ペスコ・ベジタリアン Pescetarian	×	○	○	○	—
Vegan ビーガン	×	×	×	×	—
オリエンタル・ベジタリアン Oriental vegetarian	×	×	—	—	×

※五辛（ごくん）は仏教ではニンニク、ニラ、ラッキョウ、玉ねぎ、アサツキなど臭いの強い野菜を指す。
参考：椎茸祭商店HP <https://www.shitake-matsuri.com/> 2021年11月8日閲覧

図 20：ベジタリアン（ビーガン）の説明のページ

を想定して作成した。そのため、主に日本語で作成した。

5.2.3 ツールとシートの配布

5.2.1 と 5.2.2 で作成したツールとシートを実際に現場で使ってもらい、評価と改善をすることを目的に、3.2 でアンケートを配布した呉市 50、東広島市 64 の計 114 の保育園を対象に、アンケートを同封して送付した。アンケートは紙と WEB（Microsoft Forms）両方で回答できる仕様にした。また、ツールとシートは、自由にダウンロードできるように、HP（<https://asaminno.wixsite.com/asamiogura/laboratory>）で公開した。

アンケートは、2021 年 11 月 18 日に 114 通を発送し、2021 年 12 月 20 日（1 月 9 日回収分まで解析に用いた）を締切りとした。その結果、46 件（回収率 40 %、Web での回答は 5 件）の回答があったが、外国にルーツをもつ子どもをその時点で受け入れていた保育園は 21 園で、そのうちツールを実際に使用した園は 8 園しかなかったため概要のみを記す。アンケートには、「ツールとシートを使った感想として、「保護者からよくわかると好評だった」や「子どもの体調を確認する際、イラストがあり分かりやすかった」、「細かい部分を伝えるときにどう表現すれば伝わるのか悩んでいたのを助かった」、「カードになっており簡略で分かりやすい」、「Google 翻訳を使っている

が時間がかかりお互いにストレスを感じていたが、ツールは時間短縮になり、とても便利だと感じた」などのツールを評価する意見が多数寄せられた。また、今回使用しなかった保育園からも、「今回は使用しなかったが、今後外国にルーツをもつ子どもを受入れる際に使いたい。伝わりやすいと思う。」など、今後の受け入れに向けてツールが配布されて良かったという意見が 16 園から寄せられた。アンケートには、「家庭での様子を知るために、便の有無や食事、睡眠時間についての項目」、「給食やご飯をどれだけ食べたかのカード」、「クッキングをする際のエプロン、三角巾、マスクの持参、爪の点検のお願い」、「救急車で〇〇病院に向かっています」など、日常生活から緊急時の対応まで、多くの場面を想定したツールの希望も寄せられた他、保護者のみでなく、子どもとの意思疎通の際に使えるものが欲しいという意見もあった。平（2015）は、外国にルーツをもつ小学生の就学前の言語習得の支援の一つとして「コミュニケーションを取りたくなる環境づくり」やイラストの使用を推奨しており、「やさしい日本語」とイラストを組み合わせたツールは、保育士と保護者の意思疎通のみでなく、保育士と子どもとの意思疎通にも効果的だと考えられるため、今後保育園から希望の寄せられた場面をツールに加えていきたいと考えている。

最後に、3.2 のアンケートにおいて、外国にルーツをもつ子どもを受入れることについて不安を感じているという意見があったため、ツールの配布時に外国にルーツをもつ子どもを受入れることについての考えを保育園に尋ねたところ、回答した保育園の 8 割（31 園）が「積極的に受け入れたい」と回答していたが、「条件によっては受け入れたい（7 園）」、「受け入れたいと思うが現状では受け入れることが難しい（2 園）」という回答の保育園もあった。受入れの条件として「園での生活が可能であること」、「仏教園なので宗教的に保護者の同意があれば」、「日本語が話せる、ある程度理解できる」、「通訳の方がいるなど、コミュニケーションがとれる状況であること」などが挙げられていたことから（図 21）、意思疎通がしやすい状況を整えることが、外国にルーツをもつ子どもの受け入れ促進につながると考えられる。

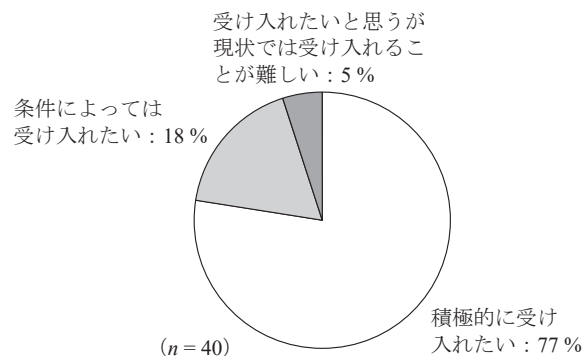


図 21：外国にルーツをもつ子どもを受入れることについての考え

6. まとめと今後の課題

本研究では、近年外国人住民の増加に伴い増えてきた外国にルーツをもつ乳幼児を受け入れる保育園とその保護者を対象にどのような問題が生じているのか、それに対しどのような対策を取るべきかを明らかにすることを目的とし、外国人比率が広島県内で最も高く、外国人留学生の比率が高い東広島市と、外国人技能実習生の比率が高い呉市を対象にヒアリング調査とアンケート調査を行った。外国にルーツをもつ子どもの保護者を対象にしたアンケート調査は、「やさしい日本語」と英語のみで行ったため、これらの言語での回答が困難な保護者からの回答が十分に得られていない可能性は否定できないが、外国にルーツをもつ子どもの保護者と保育園が直面している課題を一定程度明らかに出来た。その主な課題とその改善策について、次の通り提案したい。

6.1 入園前の対応についての課題とその改善案

市では保育園に通う子供の名簿はあるが、国籍などの確認はしていないため、外国にルーツをもつ子どもがどの程度いるのか把握できていなかった。市がそれらを把握していないため、保育園は市から受入れる子どもの決定の通知を受けた後に行う面談で初めて、意思疎通可能な言語や食事の配慮の確認をしているという状況であった。そのため、子どもの受入れを市から保育園に依頼する時点で国籍や言語能力、食事の配慮などが分かるようにして欲しいという要望が保育園からあがっていた。これについては、市の準備している保育園の申込の書類に、「国籍」、「宗教」、「話せる言語」、「食事等の配慮の有無」などの項目を追記することで、特に追加費用もなく解決できることであるので、行政には早急な対応が望まれる。

6.2 入園後の対応についての課題とその改善案

外国にルーツをもつ子どもを受け入れたことがある保育園のうち、6割以上の保育園が、「保護者と意思疎通が出来ない」ことやそれにより「食物アレルギーの情報が伝わらず、子どもが危険な状態に陥るかもしれない」ことなどを不安であると訴えていた。また、保育園でのコミュニケーションが主に日本語で行われているため、外国にルーツをもつ子どもの保護者のうち、日本語能力の低い人ほど、「保育園の先生に子どもの様子が伝えられない」や「書類の内容が分からない」、「保育園のルールが分からない」などで困っており、英語の書類や掲示、通訳・コミュニケーション補助ツールの導入などの要望が多数あがっていた。

その他に、保護者の日本語能力に関わりなく、「文化や宗教の違いが分からない」ため、受入れる子どもの親の国の文化を紹介する資料を求める声が保育園からも保護者からもあがっていたほか、保護者からは「離乳食が母国と違う」ことを心配する意見や、ハラルフードの提供の要望も多数あがっていた。また、保育園からは、市の外国人住民支援体制の情報提供を望む声に加え、加配保育士を配置して欲しいという要望があがっていた。

加配保育士、通訳や翻訳機、ハラルフードの提供などの準備には予算も人材も必要であるためすぐに対応することは難しいと考えられるが、子どもたちの安全を守るためにも、保育士が安心して働ける環境を守るためにも、将来的には対応が望まれる。英語での行政文書の作成や掲示物の作成などは、翻訳アプリ等の精度が上がってきてはいるものの、翻訳の正確性に不安があるため、保育園がメール等で依頼をしたらすぐに内容に間違いがないか確認をしてくれるようなサービスの提供が出来れば、現場の保育士の負担も軽減しつつ、保護者との意思疎通の向上が図れると考えられる。

一方で、本稿の5.2で提案したコミュニケーションを補助するツールや食事をする上での注意点などの説明シートは、予算も必要なく、配布した保育園からは使い易く、意思疎通がし易くなったという感想の他、ツールが配布されたことで今後外国にルーツをもつ子どもを受入れる際の不安が少し減ったという声もあがっていた。子どもとの対話を想定したツールや今回含めることが出来なかった場面を想定したツールの配布を望む声もあがっていたため、筆者らも出来る限り対応していきたいと考えている。

謝辞

本研究の一部は、令和2年度、3年度呉地域オープンカレッジネットワーク（OCN）会議地域活性化研究補助金（課題名：保育園における外国籍児童受け入れ態勢についての研究、保育園における外国籍乳・幼児の保護者とのコミュニケーションツールの作成）の助成を受けて実施した。王新博士にはツールの中国語訳の作成、柿元麻理恵氏にはアンケートの英文の校正にご協力頂いた。また、この調査はアンケート調査、ヒアリング調査にご協力頂いた皆様のご協力なしには実施できなかった。ここに記して、心から感謝の意を表する。

引用文献

- 小倉亜紗美・岩本みさ・神田佑亮・河村進一（2020）. 外国人住民に対する防災情報提供方策. 実践政策学, Vol. 6, No. 2, 209-220.
- 小松聖（2022）. 令和2年国際調査—人口等基本集計結果からみる我が国の外国人人口の状況—. 統計 Today, No. 180, 1-9.
- 柴田隆行（2016）. 外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援. 国際地域学研究, Vol. 19, 26-36.
- 出入国管理庁・文化庁（2020）. 在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン. https://www.moj.go.jp/isa/support/portal/plainjapanese_guideline.html.（閲覧日：2023年3月23日）
- 瀬戸麗（2022）. 外国にルーツをもつ子どもたちの学習保障にむけた学校と地域組織の連携—権力関係を前提としない連携の構築に着目して—. 社会教育学研究, Vol. 58, 11-20.
- 平茜（2015）. 外国にルーツをもつ幼児の日本語獲得に

- における現状と課題—保育所及び小学校での子どもの言葉に注目して—. 愛知教育大学幼児教育研究, Vol. 18, 55-62.
- 長橋涼子 (2018). 外国にルーツを持つ子どもの特別の教育的ニーズと支援. 児童文化研究所所報, Vol. 10, 43-52.
- 法務省「在留外国人統計 (旧登録外国人統計)」, e-Stat. <https://www.e-stat.go.jp/>. (閲覧日: 2023年3月23日)
- 松田陽子・前田理佳子・佐藤和之 (2000). 災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論. 日本語科学, Vol. 7, 145-159.
- 森雄二郎 (2018). 外国にルーツを持つ子どもの教育支援に関する一考察. 同志社政策科学研究, Vol. 20, No. 1, 89-100.
- 森田豊子 (1998). 阪神・淡路大震災後の外国人相談窓口の変化. 国際効力論文集, Vol. 5, No. 3, 阪神淡路大震災特集号, 127-145.
- 文部科学省 (2022). 日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果について (令和4年10月). https://www.mext.go.jp/content/20221017-mxt_kyokoku-000025305_02.pdf. (閲覧日: 2023年3月23日)
- 文部科学省 (2011). 外国人児童生徒受入れの手引き. https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm. (閲覧日: 2023年3月23日)
- ロング・ダニエル (2012). 緊急時における外国人住民のコミュニケーション問題—東日本大震災と阪神大震災から学べること—. 日本保健科学学会誌, Vol. 14, No. 4, 183-190.
- 和田上貴昭・乙訓稔・松田典子・渡辺治・高橋久雄・三浦修子・廣瀬優子・長谷川育代・高橋滋孝・高橋智宏・高橋紘 (2017). 外国にルーツをもつ子どもの保育に関する研究. 保育科学研究, Vol. 8, 16-23.

staff than those with lower Japanese language skills in communicating with their children, and they requested the need for documents and postings in English, interpretation and communication support tools, materials introducing their own culture, and halal food. Responding to such requests as soon as possible is necessary, but budgets are limited. The authors created and distributed a tool for communication by finger pointing, consisting of “simple Japanese,” English, and illustrations, which the nursery schools highly appreciated.

(受稿: 2023年3月31日 受理: 2023年6月14日)

Abstract

To clarify the information necessary for accepting a child with foreign roots in nursery schools, we conducted a questionnaire survey of nursery schools that accept children with foreign roots and their parents in Higashi-Hiroshima City, Hiroshima Prefecture, where there are many international students, and in Kure City, where there are many foreign technical intern trainees. As a result, it became clear that both cities do not know the overall number of children with foreign roots or enrollment information for each nursery and that nursery schools are concerned about the fear of accidents due to language barriers, lack of understanding of culture and food, and difficulties communicating with parents. Therefore, there are requests for materials introducing the culture of the child's parents' country, prior understanding of nationality, language ability, and dietary considerations at the time of acceptance, provision of information on the city's support system, and assignment of additional nursery school staff. On the other hand, parents of children with roots in foreign countries had more difficulties with the childcare